

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「物流から生じる CO ₂ 排出量のディスクリージャーの今後のあり方に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及びその対応 有識者：増井忠幸氏 東京都市大学 環境情報学部 教授	
意見の概要	意見に対する対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ・原単位データベースのメンテナンスを行なう体制を整えておかないと、次第に信頼性を失っていくので、体制整備が不可欠である。 (国内、海外でのデータ収集方法と分析・加工方法、これを用いた原単位への反映方法、原単位更新時期等のルール作りをする必要がある。) ・このような使用しやすい簡易算定ツールが存在することの広報活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面は国土交通政策研究所にて行うこととする。 ・平成 23 年 6 月に開催された国土交通政策研究所の物流研究発表会にて、手引きと算定ツールについて発表を行った。また、算定ツールの使い方について、JAFPA（日本貨物運送協会）において説明会を開催した。今後もこういった機会があれば積極的に説明会を開催していく予定。 ・また、研究報告について、取りまとめた段階で省内環境政策課や他省庁の環境担当部局に対し周知していく。

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「物流から生じる CO ₂ 排出量のディスクリージャーの今後のあり方に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及びその対応 有識者：稲葉敦氏 工学院大学 工学部 環境エネルギー化学科 教授	
意見の概要	意見に対する対応状況
<ul style="list-style-type: none"> 非常に貴重な海外データが収集されている。その中には、実験値に近いデータも含まれており、詳細な輸送状況に応じて作られたデータがある。利用者の多くは、海外での詳細な輸送状況を把握できないことが多いので、詳細な輸送状況を記述したデータを使用してよいかどうか迷うことになる。使うことができるデータを推奨する方が使いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本調査研究では、算定主体について現地法人の担当者を想定しており、詳細な輸送状況について把握が可能と考える。一方で、道路状況を考慮した数値等も掲載しており、現地担当者においても判断に迷う部分がある。そうした場合は排出量の過小評価の危険性を考慮して数値の大きい原単位を使用することを推奨する。
<ul style="list-style-type: none"> 海外のカーボンフットプリント（CFP）の調査において、製品の CFP と組織の CFP の調査が混在している印象を受ける。SCOPE3 は組織の CFP の一つであると分類できる。また、ISO の活動も製品と組織の規格が別になっている。この二つを区別することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 本調査研究では、物流に関する CO₂ 排出量に焦点を当てている。製品の CFP と組織の CFP の取り組みについて、どちらも物流に関する算定基準が定められており、本調査研究においては物流の部分を抽出して取りまとめている。 ISO の活動について、製品の規格と組織の規格の取り組みを明示し、区別した上で取りまとめることとする。
<ul style="list-style-type: none"> 算定ツールについて、たとえば利用者が積載率の向上による CO₂ 排出量の削減を目指す場合には、積載率 100%と積載率 0%のデータをソフト側が用意し、積載率を利用者が入力できるようにする方が使いやすい。ツールに組み込まれるデータと積載率の考え方を整理されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 積載率を考慮した算定は、改良トンキロ法を用いる範囲を用意しており、その範囲で車両の大きさ、積載率を入力することで算定することが可能である。 あくまで日本のデータに基づいた算定手法であり、若干の数値の相違は存在する。しかしながら、海外の積載率を考慮した算定式について現時点では把握できていないため、日本の改良トンキロ法を設定している。